

### #3 神の祭壇、すなわち全焼のささげ物の祭壇の再建

**BEV 3/6-12** 「神の人モーセの律法に書かれているとおり、イスラエルの神の祭壇を築いて、全焼のささげ物をその上にささげた」(エズラ3:2) **A** 私たちは家の回復のために、祭壇の回復を必要とします。1 召会生活のために回復されるべき第一のものは、祭壇です：**ローマ12:1** 兄弟たちよ、こういうわけで、私は神の慈しみを通して、あなたがたに勧めます。あなたがたの体を、神に喜ばれる、聖なる、生きた犠牲としてささげなさい。それが、あなたがたの理にかなった奉仕です。**1コリント2:2** なぜなら、私はあなたがたの間ではイエス・キリスト、しかも十字架につけられたこの方のほかは、何も知るまいと決心したからです。2 問題は、私たちがバビロンからエルサレムに帰還したにもかかわらず、エルサレムでなおも自分自身の利益のために多くのものを保持していて、神の権益と神の満足のためにあらゆるものを祭壇の上にささげていないかもしれないということです。**a** 私たちは、エルサレムに帰還していても、バビロンにいた時のような生活を維持すべきではありません。**b** エルサレムでの生活は、絶対的に主の権益のためでなければなりません。**B** 全焼のささげ物の祭壇は、キリストの十字架を予表しています：**民28:2** イスラエルの子たちに命じて言いなさい、「私のささげ物、私を満足させるかおりの、火によるささげ物としての私の食物を、あなたがたは注意して、その定められた時に私に献げなければならない」。1 神はご自身のエコノミーにおいて、ひとりのパースン(キリスト)と一つの道(十字架)を私たちに与えます。**a** 十字架は、神のエコノミーにおける神の活動の中心です。**ルカ9:23** そしてイエスは彼らすべてに言われた、「だれでも私について来たいなら、自分を否み、日ごとに自分の十字架を負い、私に従って来なさい」。**b** 神は十字架によってあらゆるものを統治し、十字架によってあらゆるものを対処します。2 十字架は、すべての霊的な経験の基礎、立場です。すべての霊的な経験は、十字架から開始します。**a** 私たちは霊的に前進するために、日ごとに十字架を経過する必要があります。**b** 私たちは正常な召会生活を持ちたいなら、十字架を経験する必要があります。**c** 私たちは十字架を経過して、無になり、何も持たず、何も行なうことができないようになる必要があります。そうでなければ、私たちであるもの、私たちが持っているもの、私たちが行なうことができることは、キリストに置き換わるものとなってしまいます。**II** 「彼らは…全焼のささげ物をエホバにささげ始めた」(エズラ3:6a) **A** 全焼のささげ物が表徴しているのは、キリストが神の満足のために絶対的であるということです。1 完全に神の満足のためであった全焼のささげ物が予表

しているのは、神の喜びと満足としてのキリストです。2 全焼のささげ物が予表しているのは、キリストが神に対して完全で絶対的な生活をしたということだけではなく、キリストが神の民にこのような生活をさせることができる命でもあるということです。**2コリント5:15** そして、彼がすべてのために死なれたのは、生きている者が、もはや自分自身ではなく、彼らのために死んで復活させられた方に生きるためです。3 全焼のささげ物はキリストご自身であり、そして私たちは彼と一です。こういうわけで、全焼のささげ物はまた、私たちがキリストと一であるということです。**B** 全焼のささげ物は神の食物のためであり、それは神がそれを享受し、満足するためです。1 神は全能ですが、ご自身の食べるものを自ら備えることはできません。神の食物は、ご自身の民から来なければなりません。2 キリストは神の食物です。しかし彼は直接、神の食物となるではありません。むしろキリストは、私たちによって神に給仕される神の食物です。**C** 「全焼のささげ物」と訳されたヘブル語は文字どおりには、「上って行くもの」を意味し、神に昇っていくものを示しています。この昇っていくことはキリストを指しています。1 地から神に昇っていくことができる唯一のものは、キリストが生きられた生活です。なぜなら、キリストは、神のために絶対的である生活をした唯一のパースンであるからです。**ヘブル10:5** こういうわけで、彼は世に入って来て言われます、「あなたはいけにえやささげ物を望まないで、私のために体を備えてくださいました」。2 その時私は言いました、「見よ、…あなたのみこころを行なうために、神よ、私は来ました」。2 全焼のささげ物としてのキリストの上に私たちの手を置くことによって、私たちは彼に結合されます。3 キリストは私たちの中で生きるとき、ご自身が地上で生きた生活、すなわち全焼のささげ物の生活を、私たちの中で繰り返します。**D** 全焼のささげ物は、「エホバを満足させるかおり」です：**レビ1:9** ...そして祭司は、そのすべてを祭壇の上で、全焼のささげ物として焼いて煙を立ち上らせなければならない。それは火によるささげ物であり、エホバを満足させるかおりである。1 「満足させるかおり」と訳されたヘブル語は文字どおりには、「安息の香り、あるいは満足の香り」を意味します。2 満足させるかおりは、満足と平安と安息とをもたらず香りです。そのような満足させるかおりは、神にとって享受です。3 キリストは、絶対的に神の満足のためである生活をしたので、彼の生活は、満足させるかおり、すなわち神の喜びと満足のために神に立ち昇る甘い香りでした。**III** レビ記において最初に述べられているささげ物は、罪のためのささげ物でも違反のためのささげ物でもなく、全焼のささげ物です

## 神戸に在る召会交わりと報告事項

**A**私たちは、最初にキリストを私たちの全焼のささげ物として必要とします。なぜなら、神の御前で私たちの最初の状況、神とのかかわりにおける私たちの最初の問題は、違犯の事柄ではなく、神のためではないという事柄であるからです。**1**神が私たちを創造したのは、私たちが神の表現また代理となるためでした。**2**神が私たちを創造したのは、私たち自身のためではなく、私たちが神ご自身のためとなるためでした。しかし、私たちは墮落した人として、自分自身のために生きており、彼のために生きていません。**B**全焼のささげ物が意味するのは、私たちが神を表現し代行するために神によって創造された人として、神以外の何もののためでもあるべきではないということです。**C**私たちは、自分が神のために絶対的でないこと、また自分自身の中では絶対的になることはできないことを認識する必要があります。ですから私たちは、キリストを私たちの全焼のささげ物とする必要があります。**レビ1:4-5** 彼はその全焼のささげ物の頭の上に手を置かなければならない。そうすれば、それは彼に代わって受け入れられて、彼のために罪を覆う。彼はその若い雄牛を、エホバの御前でほふらなければならない。そして祭司であるアロンの子たちは、その血を献げて、集会の天幕の入り口にある祭壇の上と四つの側面に、その血を振りかけなければならない。**IV**常にささげる全焼のささげ物の生活をするのは、生きた犠牲になることです。**A**全焼のささげ物は、私たちの献身の予表であり、私たちが自分自身を生きた犠牲として神にささげることの予表です。献身の意味は、自分自身を生きた犠牲として神にささげることです。**B**旧約における日ごとの全焼のささげ物が予表しているのは、新約において、神に属する私たちが日ごとに自分自身を神にささげるべきであるということです。**C**今日、私たちのクリスチャン生活と召会生活には、常にささげる全焼のささげ物が必要とされます。**V**私たちは、全焼のささげ物としてのキリストをもって父なる神を礼拝して、神に満足していただき、神の願いを成就する必要があります。**A**神は、私たちがすべてのささげ物の実際としてのキリストをもって神を礼拝することを願っています。ささげ物は、神を喜ばせ、神を幸いにするためです。**B**正しい礼拝は、全焼のささげ物としてのキリストをもって神に満足していただくという事柄です。**1**私たちが全焼のささげ物の実際としてのキリストをもって御父を礼拝するとき、神に喜ばれるかおりは神に立ち昇り、神を満足させます。**2**私たちが全焼のささげ物の実際としてのキリストを神にささげることで、神は満足されるので、神が私たちを受け入れることは甘美なこととなります。この事が全焼のささげ物の意義です。

### 1. 祈りの負担:

- a 「世界の究極の情勢は、一つのこのため、神の究極の回復である主の再来をもたらすことである」を知り、目を覚まして、自分自身の用意を整える。
- b 2023年の新しい召会生活の実行のため:
  - ① 【食べる】キリストを毎日食べて、キリストで構成され、キリストを表現し、キリストを代行する。
  - ② 【生む】福音を伝えて、救われる人を生み出す。
  - ③ 【養い・成就する】新人を家庭集会で養い、バイタルグループで成就して、新しい奉仕者を生み出す。
  - ④ 【建造する】主日の集会は建造のためです。YouTubeからZoomへ、Zoomから集会所へ、建造のために集会所に集まる。

### 2. 親子ジョイフルタイム:

3/5(主)13:30-14:30@本山

### 3. 本山学生福音センターについて:

3/18(土)に完成し、引き渡しとなります。これに合わせて、林純正B、林純安S、余力聖美S、ルーカス君が神戸に来ます。また、余力純一家は、3/20(月)に引っ越しします。本山学生福音センターの活用とこのブレンディングが祝福されるようにお祈りください。

### 4. 東大阪とのブレンディング:

3/25(土)-26(主)に東大阪から若い在職青年の兄弟姉妹が3~4家族、神戸にブレンディングに来られます。彼らは福音を学ぶために来ます。このブレンディングが祝福されますように。

### 5. 3月福音集会担当按配:

3/12 夙川

3/19 YP

3/26 六甲

### 6. 土曜8:30-9:00の預言準備集会担当:

3/11 六甲

3/18 魚崎・六アイ

3/25 本山

### 7. 3月国際長老責任者訓練:

3/31(金)8:30-17:30

4/1(土)8:30-17:30

4/2(主)13:30-17:30

参加される兄弟たちのためにお祈りください。



**CP1**神の満足のために、私が持つすべて、私であるすべてを全焼のささげ物として祭壇の上にささげる

**IA**私たちは家の回復のために、祭壇の回復を必要とします。**1a**私たちは召会生活を持つことができる前に、あらゆるものを祭壇の上に置かなければなりません。**b**私たちは、自分が持っているすべて、自分であるすべて、自分が行なうことができるすべてを祭壇の上に置いて、神に満足していただくかなければなりません。この事が召会生活の開始です。エズラ3:2 ...神の人モーセの律法に書かれているとおり、イスラエルの神の祭壇を築いて、全焼のささげ物をその上にささげた。

エズラ記3章によれば、彼らは全焼のささげ物以外に何も祭壇の上にささげませんでした。彼らは罪のためのささげ物、違犯のためのささげ物、平安のささげ物、あるいは他のどんなささげ物もささげませんでした。

私たちはみな全焼のささげ物が神の満足のためであることを知っています。罪のためのささげ物は罪のためです。違犯のためのささげ物は私たちの違犯のためです。平安のささげ物は私たちの平安のためです。穀物のささげ物は私たちの満足のためです。しかし、全焼のささげ物は神の満足のためです。家を回復することは、神の満足のためです。家は私たちが赦されるためではありません。それは私たちが神に対して平安を持つためではありません。それは私たちの享受のためではありません。それは完全に神の満足のためです。ですから、私たちはただ全焼のささげ物だけをささげなければなりません。言い換えると、私たちは自分が持っているすべて、自分であるすべて、自分が行なうことができるすべてを祭壇の上に置いて、神に満足していただくかなければなりません。この事が召会生活の開始です。私たちはすべてを祭壇の上に置かなければなりません。そうしてはじめて、私たちは召会生活を持つことができます。若者は彼らの大学の学位、彼らの学問をささげなければなりません。また私たちはみな神の満足のために、私たちが持っているすべて、私たちであるすべてを祭壇の上にささげなければなりません。そうでなければ、神の家を回復することは不可能です。

私たちは主に対して真剣であるなら、すべてを祭壇の上にささげなければなりません。...私たちはエルサレムに帰還していても、バビロンにいた時のような生活を維持すべきではありません。エルサレムでの生活は、絶対的に主の権益のためでなければなりません。主の回復における生活は、絶対的に召会の建造の回復のためでなければなりません。

**適用:青少年・大学生、新人編**

**証1**私は今年の4月から東京全時間訓練に参加することを決めています。最初は、大学院の推薦入試に落ち、一般入試で合格する自信もなく、就職活動も全然していなかったのに、卒業したらどうしようと迷っていた時に、突然、「訓練に行くのもありかも」と思いました。これは完全に自分のためでした。しかし、ウェルカムミーティングや短期訓練に参加したことで、どんどん考えは変わり、その後、大学院に一般入試で合格した後も、訓練に行きたいという気持ちは変わりませんでした。訓練の生活はとても大変なので、本当に2年間続けられるか心配なところもたくさんあります。しかし、私は、キリストを全焼の捧げ物として取り、キリストを経験して、完全に神にささげることができることを感謝します。

**証2**私は2011年3月の東日本大震災の後に、台湾の全時間訓練生として福音開展のために神戸に来ました。地震の後、日本人の心が開かれて、多くの日本人が救われました。自分は福音開展が終わったら帰国しないといけなかったので、救われた新人が養われ残る実となるように、彼らを牧養する人を起こしてくださいと祈った時に、内側に主から、「その人はあなたではないか!」との語りかけがありました。訓練を卒業した後、帰国して就職するつもりでしたので、「私は日本語ができないので、無理です」と主に言いました。しかし、主からの感覚を拒絶した後、内側の流れは止まって、喜びがなくなりました。数日後、主と個人的な祈りの時に、中国語の補充本651の詩歌を歌いました、「愛する主よ、私が行くべきところに私は行きます。それが平地であれ、山河であれ、私が行くべきであれば、私は何が言えるでしょうか。私は何が言えるでしょうか。私がどうあつて欲しいかに従って、私はそうあるべきです」。この詩歌を歌った後、自分の将来を主に捧げて祈りました、「お主イエスよ! 将来の道は私には分かりませんが、あなたに捧げます! あなたが私を神戸に行くように願うなら、私は行きます。福音牧養の生活は訓練の二年間で終わるのではなく、私は一生涯福音牧養の生活をします。あなたの権益のために自分自身を捧げます」。このように主に祈った後、内側の流れが戻り、神が喜んでおられることを感じました。私は主を全焼のささげ物として取り、神に捧げました。訓練卒業後、神戸に来て兄弟姉妹と一緒に福音牧養の生活を実行できていることを感謝します。その後、主が、進学、就職、結婚、神戸での全時間奉仕の各方面で、私を祝福してくださった事を感謝します。

CP2 絶対的に神のためであるキリストの人性を、全焼のささげ物として享受して、自分自身を主にささげる

II 「彼らは... 全焼のささげ物をエホバにささげ始めた」(エズラ3:6) C 「全焼のささげ物」と訳されたヘブル語は文字どおりには、「上って行くもの」を意味し、

神に昇っていくものを示しています。この昇って行くことはキリストを指しています。1 地から神に昇っていくことができる唯一のものは、キリストが生きられた生活です。なぜなら、キリストは、神のために絶対的である生活をした唯一のパーソンであるからです。

a キリストは私たちの全焼のささげ物として、完全に神のためであり、絶対的に神のためです。b 主イエスであったものは何であれ、彼が語ったことは何であれ、彼が行なったことは何であれ、絶対的に神のためでした。2 全焼のささげ物としてのキリストの上に私たちの手を置くことによって、私たちは彼に結合されます。レビ1:4 彼はその全焼のささげ物の頭の上に手を置かなければならない。

私たちは最初に全焼のささげ物としてのキリストを必要とします。なぜなら、神に対する私たちの第一の問題は、違反の事柄ではなく、神のためではないという事柄であるからです。私たちは違反をしようとしまいと、依然としてそれほど神のためではありません。私たちは何も間違った事をしなかったとしても、依然として神のためではありません。私はこの人やあの人に対して間違いがないかもしれませんが、神に対して間違っています。なぜなら、私は依然として神に対して絶対的ではないからです。ですから、私たちの最初の必要は、全焼のささげ物としてのキリストです。

私たちの全焼のささげ物としてのキリストの上に手を置くことによって、私たちは彼に結合されます。... そのような結合、そのような一体化が示すのは、私たちのすべての弱さ、欠陥、欠点、落ち度が彼のものとなり、彼のすべての美德が私たちのものとなるということです。これは交換ではありません。それは結合です。... 私たちがキリストをささげ物として享受することができるという思想は、レビ記の中に隠されています。例えば、私たちはキリストを全焼のささげ物として享受します。私たちは神のために絶対的であることはできませんが、全焼のささげ物としてのキリストは神のために絶対的です。ですから、私たちはキリストを全焼のささげ物とし、彼を全焼のささげ物として享受すべきです。このようにキリストを経験し享受するために、私たちは祈る必要があります、「主イエスよ、あなたは素晴らしいパーソンです。あなたは絶えず私と共にいる究極的に完成された霊であり、私と共にいる私の全焼のささげ物です。主よ、私は神を満足させることができませんが、あなたは

神を満足させることができます。私は神のために絶対的であることはできませんが、あなたは常に神のために絶対的であり、今もなおそうです。主イエスよ、今私は、あなたを私の全焼のささげ物とします」。

適用: ビジネスパーソン、大学院生編

証 私には学生の時に、『実際であるキリスト (Christ as the reality) 』を英語で読んで、「神の前での人の第一の問題は、違反ではなく、人が神のために絶対的でないこと」、更に、「神のために絶対的な人性はキリストであり、彼は全焼のささげ物 (Burnt offering) の実際であること」の二つの点で照らされ、供給されました。なぜなら、私はどんなに絞り出しても自分が100%絶対的に神のために純粋でないことが分かっていたからです。いつも残っている不純さが私を悩ませていました。しかし、この本を読んで、私は解放され祈りました、「主イエスよ、あなたを賛美します。あなたは絶対的に、100%、神のために生きられたお方です。あなたは全焼のささげ物の実際です。全焼のささげ物は完全に神の満足のためだけに、すべて焼かれるささげ物です。私は神のために何かを行っても、いつも自分のための部分が残っており、どんなに頑張っても100%、絶対的に主のためであることができませんでした。しかし、ここに100%神のために生きた人、あなたがおられることを感謝します。私は自分に失望し、あなたを全焼のささげ物として取ります」。

その時、詩歌381番を思い出しました。

1. 主わが命、内に生く; 神の豊富で我、満たす。  
なが性質で、われきよめ、復活の大能、勝利得さす。
5. われをまったく主にささぐ、御ころにて交わりす;  
もはや自分であらためず、もがかず、主を妨げず。
6. おのが努力、全くやめ、主、働かせ、自己を脱ぐ;  
聖徒取り組むみからだは、主を住ませ、主を表現す。

特に5, 6節で、十字架を経験して、自分の働きを終わらせる時、キリストを全焼のささげ物として取ることができることが分かりました。この経験は、私を大いに助けました。そして、主のために奉仕をする時に、先ずキリストを全焼のささげ物として取って、キリストの人性にあずかってから奉仕するようになり、良心の訴えがなくなり、平安、主の臨在、祝福の中で奉仕できるようになりました。

祈り おお主イエスよ、神に対する私の第一の問題は、私が神に対して絶対的でないことです。しかしあなたは地上で人として絶対的に神のために生きられました。キリストは全焼のささげ物の実際です。キリストだけが神を満足させることができます。ですから私は十字架を経過し、キリストと結合して、全焼のささげ物としてのキリストを取り、享受し、自分自身を徹底的に主に捧げます。